

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500640		
法人名	有限会社めぐみ		
事業所名	グループホームめぐみ荘		
所在地	長崎県大村市西部町495－7		
自己評価作成日	令和4年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちグループホームめぐみ荘は住宅の喧騒から離れた立地にあり自然に囲まれた環境の中で、入居者の方々とスタッフが【共生(ともいき)】の精神で認知症しょうじょうの緩和に努めております。入居者様の思いに配慮し、寄り添いながら、入居者様ご家族様に満足していただけるさーびすの提供を心がけております。地域の方々にも発信し開かれたグループホームを目指しております。入居者の皆様が笑って【今を生きる】ことを実践できるようにサポートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、職員がホームの理念や方針に基づき日々の支援に対し目標を持ってケアを実践し、入居者が笑顔でその人らしく生活できるよう理念の具現化に取り組んでいる。地域貢献の一環として、認知症ほっとライン事業所として登録されており、市民からの認知症に関する相談を受ける態勢を築いている。コロナ禍の為、外出を自粛しているが、天候や気温に留意した上でホーム周辺を散歩したり、ホームの中庭で日光浴をしながらお茶の時間を設けるなど工夫している。看護職員を配置し、協力医と連携して医療的な支援を行っており、看取りへの対応も含め、家族の安心感に繋がっている。入居後も本人の趣味活動を継続し居室への持ち込みを柔軟に対応するなど本人が好きなことや得意なこと、大切にしていること等を入居後も継続できるよう本人本位の支援に努めている。入居者同士の関係性を考慮したテーブルの配置で、職員との会話を楽しんだり、テレビで時代劇や相撲を見るなど入居者が思いおもいに過ごされている。窓から自然光を取り入れ、落ち着きある空間で、本年は業者に依頼し、全館の空調の点検・整備を行い、感染対策・清潔保持に留意しながら入居者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームめぐみ荘・めぐみ荘2

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し意識できるようにしている。 入社時には説明を行い、必要な時は職員会議でも話しをしている。	ホームの理念である『笑顔』『尊厳の遵守』『自立支援』『よりその人らしく』『個別ケアの実践・充実』『地域交流』を掲げ、入社時に説明すると共に、職員がケアに悩んだ時や年間の目標を振り返る際に実践状況を確認し、理念の浸透を図っている。 職員は理念や方針に基づいた目標を持ってケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続き今年も新型コロナウイルス感染症の感染防止の為、いつも参加しているお祭りや慰問を控えていて、交流は難しい。	ホームは町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報を得、コロナ禍の中、可能な限り地域との接点を持っている。現在、コロナ禍により地域との交流ができていないが、コロナ禍以前は入居者が地域の催しや地域の老人会カラオケに参加したり、地元消防団を招き消防訓練を実施するなど日常的に交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年に続き今年も新型コロナウイルス感染症関係で地域の方々との接触が難しく、話をする機会が持てなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームの活動や入居者様のご様子を報告している。今年も新型コロナウイルス感染症の関係で書類での会議となっているが、ご意見等でサービスの向上について考えることはできている。	コロナ禍により書面による運営推進会議を行い、ホームの状況、ヒヤリハット、勉強会の内容等を報告し、町内会長や家族代表といった運営推進会議の構成委員より、質問、意見、助言等を得ている。委員からの意見等に対し、ホームの回答を明記した議事録を残しており、審議した内容や経緯が家族等の関係者が閲覧した際に分かりやすく記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の関係で、メールや電話のやり取りが多くなったが、情報提供を含め、連携は取れている。	介護保険更新手続きや生活保護関連などで管理者が行政の窓口に出向き、ホームの状況を説明したり必要な助言を得ている。ホームは地域貢献の一環として、認知症ほっとライン事業所として登録されており、市民からの認知症に関する相談を受ける態勢を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を開き、指針に基づき話し合い理解を深めている。	ホームでは身体拘束ゼロを実践している。3か月に1回、ホーム全体での身体拘束適正化委員会を開催している。センサーを使用している入居者がいるが、入居者の行動を制限しないよう努め、その方の動きを察知しサポートできるよう取り組んでいる。身体拘束に関するマニュアル類は職員がいつでも確認できる場所に保管している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い職員間でも意見交換しながら自分を客観視する機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学び報告するようにしているが、該当者がいない為、活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結や解約の際は時間を多めに取り説明を行っている。改定の場合は分かりやすく説明した文書を各家族に配布し理解と協力を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員については気軽に話せる雰囲気関係づくりに努めている。また、毎月のご様子や受診状況、活動予定など担当職員よりお便りで発信している。不安や希望など会話からいただくこともある。	ホームでは年1回、家族アンケートを行い、家族の意見や要望の抽出に努めている。毎月、入居者の日頃の状況写真を掲載した「めぐみ荘たより」を発行し、職員のコメントと共に家族へ伝えている。コロナ禍により面会制限を行っているが、玄関内にビニールシートで区分けし面会場所を設け短時間の面会を行うなど、可能な限り家族の意向を反映できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員はあまり垣根がなく意見や気持など話し合ったりできている。	月1回の全体会議や日々の業務の中で管理者に意見や提案を出している。最近では職員より薬のチェック方法について提案があり、改善に向け具体的に取り組んだ。管理者は、職員の要望等により勤務シフト柔軟に行い、働きやすい職場づくりに努めており、希望休や有給休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を把握し、いいかたつたえかたを考慮しながらモチベーションを向上してもらえるように努めている。給与面でも改善を図りながら向上心を持ってもらえるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を実践し、モチベーションを高めてもらえる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加しているが、今年は新型コロナウイルス感染症の関係で会議の開催が少なく、交流は難しい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が確定するとアセスメントを行う。その後も関係機関や家族にお話を聞きながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時にも確認しているが、入居の際はご家族も混乱していることが多く、時間を経て再度確認するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には実情を把握し他のサービスの利用について説明を行うが、家族側として入居の希望が強い場合はその対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の中で困りごとや不安の解決策を一緒に考えたり、表情等を見て職員同士で話し合い改善に導いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年も新型コロナウイルス感染症の関係で面会制限を行ったりと、なかなか会えない期間が多いので面会時や電話等でご本人の様子をできるだけ多く話すように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の関係で、なかなか難しいが、入居者様とご友人との文通の支援等行っている。	入居時に、入居者本人へアセスメントを行い、入居者の生活歴等を確認し、馴染みの関係を把握している。コロナ禍前は、墓参りや老人会の友人との交流など継続していたが、現在は、コロナ禍により馴染みの人や場所との交流を自粛している。以前からの趣味活動や芋ほり、桜の見物等、できる範囲で支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性ははりかいてきている。一人一人の性格を考慮し作業などの時はスタッフが間に入り新たな関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も気軽に話せる関係性を現時点から作っておく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からその方の生活スタイルを見つけたり家族への確認を通じてできるだけ本人の希望に沿うように検討している。	職員は、入居者自身で思いの表出ができる方には直接聞き取り、思いを口に出せない方には日頃のコミュニケーションを通じて思いを汲み取り、把握するよう努めている。家族にも電話で意向などを聞き取り、本人本位の生活が実現できるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者からの情報で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望に添えるようにしている。健康状態においてもバイタル確認で変化があれば迅速に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者からの情報はもとよりスタッフ間でもカンファレンスを行い、できるだけ計画書に反映されるようにしている。	ホームでは、年1回、家族アンケートを行い、家族の意見や要望の抽出に努めている。介護計画の見直し時にサービス担当者会議を開催し、夜勤の職員等からも意見や助言を得るなどし、ケアマネジャーが本人の実態に即した介護計画を立案している。評価表に目標を掲げ、実践できた場合は項目に○を記入することで、職員が日頃より介護計画に沿った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化や気づきなどは記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に応じた対応をサービスという観点ではなく柔軟に支援することができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握はできているが活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の理解と協力を経て、訪問診療できる病院へ変更させていただき、毎月、訪問診療して頂くことで安心されている。	入居時に、入居者本人や家族に対して訪問診療が可能なホームの協力医について説明し、理解を得ている。現在は、入居者15名がホームの協力医を利用している。尚、入居者の中には以前のかかりつけ医を継続している方もいる。職員が同行し、眼科、皮膚科などの専門医へ受診支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	NSWとの意見交換、情報提供を行い入院中でも情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明を行っているが、その時期になると時間を取って頂き、丁寧に説明を行っている。その方にあった支援体制を各機関やご家族と相談して行っている。	入居時に、重度化した場合における指針、終末期生活支援に関する覚書、フローチャートをもとに家族へ説明し同意を得ている。これまでも看取りの経験があり、全職員が関わりながら、入居者が最期までその人らしく過ごすことができるようその方の思いに寄り添う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護職員と連絡、連携、支援ができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、初期消火訓練は定期的に行っている。	本年はこれまで、5月、6月、8月（日中及び夜間想定）、9月、11月に火災避難訓練を行っている。ホームは、月1回を目標に避難訓練を実施し、火災発生時の手順や入居者の安全な避難方法について確認している。賞味期限を把握し、飲料水・缶詰類等の保存食を備蓄している。非常時に入居者情報を持ち出せるよう緊急持ち出し一覧を整備している。コロナ禍前は、2年毎に地区消防団第13分団より参加してもらい協力体制を築いた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては声のトーンや速さなど気を付けている。記録や個人情報にも配慮できている。	コロナ禍も影響し、入居者の介護度や認知症状が重度化した方が増えていることを踏まえ、職員は本人の意思を尊重した支援を実践できているかをチェックリストを用いて振り返りを行っている。掲示物などへの本人の写真掲載は、家族より同意を得ている。ホーム内で各種勉強会を行っているが、コロナ禍により内外部の接遇研修に参加することはできていない。	例えば、ホームで必ず実施する研修に加え、今年度、職員が参加できていない、または、ホームで実施できなかった研修(接遇研修等)を、次年度の年間研修(勉強会)計画に組み込み立案するなど、今後の計画的な取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意しできるだけ発信を促すように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にしながらケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や整髪など心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々食べたいものを聞いて献立に反映させている。ごぼうのさがきやつわの皮むきなどお手伝い頂くことがある。	朝食と昼食はホームの調理担当職員により提供し、夕食は週4回外部業者に委託している。入居者の中にはツワの皮むきを行うなど、入居者の役割を見出し、残存機能の保持や生き甲斐づくりに繋げている。誕生日や正月にはケーキやおせち料理といった行事食を提供するなど、入居者が食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の関しては栄養面や量など適量提供できている。水分もお茶、紅茶、ココア、アクエリアスなど準備しており常に飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のペースを把握し、事前誘導を行ったり、その方に必要な物品の提供や提案をしている。	職員は、入居者の状態を見逃さず、立ち上がり時やソワソワした行動がその方の尿意である場合を見極め、入居者個々に声掛けし、トイレ誘導に繋げている。その日の気づきは全体ノートに残し、必要に応じて排便コントロールを行い、職員会議において話し合いながら排泄状況を検討し、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品を活用したり水分を多めに提供したりしている。適宜に運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも対応できるように整えている。声掛けも行っている。	現在、2階のユニットの浴槽が明るく十分な広さがあるため、2階の浴槽を使用して週2回午後を基本として入浴を支援している。毎日、湯を沸かしており、本人の希望があれば毎日でも入浴ができる。同性介助にも対応し、入浴を拒否する方には柔軟に対応し、シャワー浴や清拭、足浴等、入居者が心地良く入浴が楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自分の空間を意識できるように、ご家族にお願いをして本人様の物品を持ってくるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に管理し、薬の内容などはスタッフ間で情報交換しながら実施できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでいただいたり、玄関をはわいて頂いたり生活の中での役割を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染力の強いコロナウイルスの関係で外出などはなかなかできなかった。中庭にでて日光浴などを行っている。	コロナ禍の為、外出を自粛しているが、天候や気温に留意した上でホーム周辺で散歩したり、ホーム中庭で日光浴をしながらお茶の時間を設けるなど工夫している。感染対策を行い、ホームの近くの桜を見に出掛けたり、ドライブに出掛けて車中から町の様子を楽しむなど本人の気分転換を図り、可能な範囲で外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解が必要なので、現状では事務所で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようにしている。また友人やご家族に手紙を書かれる方には支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽の光などできるだけ自然を取り入れるようにしている。共有の場合なので空調も最低限に合わせて、個人的に衣類で調整してもらうようにしている。	本年は、業者による全館の空調の点検・整備を行った。入居者同士の関係性を考慮したテーブルの配置で、職員との会話を楽しんだり、テレビで時代劇や相撲を見るなど入居者が思いおもいに過ごされている。窓から自然光を取り入れ、落ち着いたある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の作り上、居室のドアを開けるとフロアが見えることもあり一人になりたいときは自室に行かれることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時にご家族へお願いをしてできるだけ馴染みのものを持ってきて頂いている。カレンダーや写真など自分の部屋と意識してもらえる様に支援している。	居室には、家族の写真や馴染みのテーブル・イスなどが持ち込まれている。本人が大切にしている信仰心に配慮し、持ち込み品は柔軟に対応している。裁縫が得意な入居者がミシンを持ち込み、コレクションとしてホームに飾るなど安心してホームで生活できるよう支援している。看取り期には居室への家族の宿泊にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように動線を意識した工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームめぐみ荘・めぐみ荘2

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し意識できるようにしている。 入社時には説明を行い、必要な時は職員会議でも話しをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続き今年も新型コロナウイルス感染症の感染防止の為、いつも参加しているお祭りや慰問を控えていて、交流は難しい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年に続き今年も新型コロナウイルス感染症関係で地域の方々との接触が難しく、話をする機会が持てなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームの活動や入居者様のご様子を報告している。今年も新型コロナウイルス感染症の関係で書類での会議となっているが、ご意見等でサービスの向上について考えることはできている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の関係で、メールや電話のやり取りが多くなったが、情報提供を含め、連携は取れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を開き、指針に基づき話し合い理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い職員間でも意見交換しながら自分を客観視する機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学び報告するようにしているが、該当者がいない為、活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結や解約の際は時間を多めに取り説明を行っている。改定の場合は分かりやすく説明した文書を各家族に配布し理解と協力を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員については気軽に話せる雰囲気関係づくりに努めている。また、毎月のご様子や受診状況、活動予定など担当職員よりお便りで発信している。不安や希望など会話からいただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員はあまり垣根がなく意見や気持など話し合ったりできている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を把握し、いいかたつたえかたを考慮しながらモチベーションを向上してもらえよう努めている。給与面でも改善を図りながら向上心を持ってもらえるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を実践し、モチベーションを高めてもらえる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加しているが、今年は新型コロナウイルス感染症の関係で会議の開催が少なく、交流は難しい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が確定するとアセスメントを行う。その後も関係機関や家族にお話を聞きながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時にも確認しているが、入居の際はご家族も混乱していることが多く、時間を経て再度確認するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には実情を把握し他のサービスの利用について説明を行うが、家族側として入居の希望が強い場合はその対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の中で困りごとや不安の解決策を一緒に考えたり、表情等を見て職員同士で話し合い改善に導いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年も新型コロナウイルス感染症の関係で面会制限を行ったりと、なかなか会えない期間が多いので面会時や電話等でご本人の様子をできるだけ多く話すように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の関係で、なかなか難しいが、入居者様とご友人との文通の支援等行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性ははりかいてきている。一人一人の性格を考慮し作業などの時はスタッフが間に入り新たな関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も気軽に話せる関係性を現時点から作っておく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からその方の生活スタイルを見つけたり家族への確認を通じてできるだけ本人の希望に沿うように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者からの情報で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望に添えるようにしている。健康状態においてもバイタル確認で変化があれば迅速に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者からの情報はもとよりスタッフ間でもカンファレンスを行い、できるだけ計画書に反映されるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化や気づきなどは記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に応じた対応をサービスという観点ではなく柔軟に支援することができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握はできているが活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の理解と協力を経て、訪問診療できる病院へ変更させていただき、毎月、訪問診療して頂くことで安心されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	NSWとの意見交換、情報提供を行い入院中でも情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明を行っているが、その時期になると時間を取って頂き、丁寧に説明を行っている。その方にあった支援体制を各機関やご家族と相談して行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護職員と連絡、連携、支援ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、初期消火訓練は定期的に行っている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては声のトーンや速さなど気を付けている。記録や個人情報にも配慮できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意しできるだけ発信を促すように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にしながらケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や整髪など心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々食べたいものを聞いて献立に反映させている。ごぼうのささがきやつわの皮むきなどお手伝い頂くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の関しては栄養面や量など適量提供できている。水分もお茶、紅茶、ココア、アクエリアスなど準備しており常に飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のペースを把握し、事前誘導を行ったり、その方に必要な物品の提供や提案をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品を活用したり水分を多めに提供したりしている。適宜に運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも対応できるように整えている。声掛けも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自分の空間を意識できるように、ご家族にお願いをして本人様の物品を持ってくるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に管理し、薬の内容などはスタッフ間で情報交換しながら実施できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでいただいたり、玄関をはわいて頂いたり生活の中での役割を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染力の強いコロナウイルスの関係で外出などはなかなかできなかった。中庭にでて日光浴などを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解が必要なので、現状では事務所で管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようにしている。また友人やご家族に手紙を書かれる方には支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽の光などできるだけ自然を取り入れるようにしている。共有の場合なので空調も最低限に合わせて、個人的に衣類で調整してもらうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の作り上、居室のドアを開けるとフロアが見えることもあり一人になりたいときは自室に行かれることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時にご家族へお願いをしできるだけ馴染みのものを持ってきて頂いている。カレンダーや写真など自分の部屋と意識してもらえる様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように動線を意識した工夫を行っている。		